

農園部会だより

●4月26日(土) 11人が参加してくれました。

先週に引き続き、中学生1人が昆虫観察のために里山農園に来てくれました。丸山に居たな～と思っていたら9号地で昆虫を探していたりと、熱中している姿にとっても歓心を得ました。1号地では、ある程度成長したダイコンの間引きや夏野菜の植え付けに向けて3畝ほどマルチを掛けたり、支柱として竹を切って運んだりと準備を中心に行いました。また10号地・11号地ではハンマーモアの運転講習を行いました。免許皆伝に向けて頑張っておられました。

5月6日(祝火)に夏野菜の植え付けを実施するにあたって、去年はチャレンジしなかったトマトやスイカも植えたかどうかと大変盛り上がっています。GW最終日や終盤でお疲れの方も多いと思いますが、里山農園にて自然の元気をいただきましょう！



ダイコンの間引き



夏野菜植付に向けたマルチ掛け



ハンマーモアの運転練習

無農薬で安心、安全な夏野菜を皆で育てよう！



連休 最終日 5月6日(火) 10:00～12:00 集合ください。

夏野菜の植え付けを行います。

トマト(3種類)、ナス、ピーマン、万願寺トウガラシ、
里いも等々 トウモロコシ、枝豆は種まきします。

植え付け後1か月半で美味しい夏野菜が収穫できます。虫さんや病気も発生しますが、炭焼きで出来た木酢液で予防します！



2006年に里山農園の開拓の草刈りがされましたが手作業ではとても無理な作業と判断して音を上げました。2009年の春には市販の小型の草刈り機の購入があって第2回目の開拓がはじまりました。2号地まで歩行できる小道の開通は2010年の春にできました。その秋には初物のすごく立派な大根が生育しました。2015年ごろには農園収入が30万円にもなり40万円を目指そうとした2016年にササユリ事件で計画がしぼみしました。その頃からイノシシ被害が目立ち、鉄柵を張りめぐらせて防御を行いましたが、イノシシの侵入は完全に防ぎきれずに今日に至っています。設置して6年が経過していますのでこの辺りで抜本的な対策が必要な時期を迎えています。昨年からアライグマも加わっての被害も出てきていますし、カメムシの大量発生もあり、作物の種類や土壌改良などにも知恵を発揮しなければならないのではないのでしょうか？

●2025 年度は 30 周年記念の前年にあたりますので、記念の取組について週刊ニュース 1030 号掲載（4 月 25 日）で読者の皆様にご提案をお願いいたしました。

具体的な提案は頂けていませんので、ベテランと若手の代表で日時・場所・内容について相談の機会とメンバーを次回事務局会議で決定させていただくことになりましたので、ご協力をお願いいたします。

●ヤマトサンショウウオの産卵は 3 月 13 日と 15 日の 2 日にそれぞれ 1 対で合計 2 対が見つけれましたが、その後は雨が溜まらず干し上がった状態が今も続いていまして、産卵されないとの見通しです。非常に厳しいですね。見つけられた 1 対は京都水族館にお譲りしてうまく育て（132 匹）くれているようですので、不幸中の幸いです。里山の会では調査観察を続けてきましたが、卵囊から孵化したとの結果も確認できていませんし、その後は全く水が溜まっておりませんので孵化できなかったのではないのでしょうか。

●第 31 回通常総会 4 月 29 日(火)

社員 34 名 出席者 16 名 委任状提出 15 名 欠席 2 名

会員参加：吉村國男 中沢洋斗 吉村開 福本佳之



晴天の 29 日に 31 回目の里山の会通常総会が開催されて 2024 年度の活動方針と決算・監査報告が承認されました。続いて 2025 年度活動方針と予算案が決定されました。そして新理事を選出する第一回理事会が開催され、新理事の互選で理事長に岩佐英夫さん(弁護士)が全員一致で選出さ



新理事長の岩佐英夫さん



退任の大村幸正さん

れました。総会では社会問題にされ始めている PFAS について京田辺市の現状説明や里山農園に隣接する祝園弾薬庫がミサイル基地に建設される発言がありました。続いて貴重植物や生き物の保全作業への京都府からの助成は？里山農園の飲料水やトイレの必要性の強調、HP のセキュリティ問題、ボランティア保険内容の保証内容説明の徹底を図るべきとの発言がありました。そして余剰金の使い道への質問が続き熱心な審議がありました。今回の総会ではオブザーバーとして中学生 2



名が参加されたのは初めての出来事で、これまでだったことです。体調不調にもかかわらず、これまで理事長としてご奮闘されてきた大村幸正氏が皆様の大きな支えに感謝する解任挨拶に満場の拍手が送られました。ご苦労様でした。経験を活かしてご活躍をお願いいたします。

●会誌 58 号の会誌作成に朝から一日の大作業を実行 4 月 30 日(水)



事務局会議の後、会誌 58 号の印刷の開始に取り掛かりました。準備に取り掛かると見落としていたところがつぎつぎと見つかり、印刷機を運転開始は正午になりました。そして印刷機は何回も何回もストップしその都度ミスの印刷紙を一枚も残さず(多い時には 9 枚、9 カ所)取り出さないと、印刷を開始してくれないので本当に大変でした。この故障ストップの改修を繰り返すことで印刷機のポイントを徐々に学び取り、これまで無造作に補給していた紙の追加も丁寧に気を使って行えるように学びとることが出来るようになりました。苦勞することで学ぶことがあり、無駄ではない事が多くあります。この日だけで発送までの準備が到達で

きなかったで、

昨年と同様に二日目も必要になりました。頑張っていたいただいた皆様ご苦勞様でした。

5 月 1 日(木)に発送を完了しました。

会誌 58 号の印刷製本風景
印刷機のストップで時間がかかりました。



●京田辺市の子どもの食堂を 10 年継続してこられた新井達夫さん(チームせせらぎスマイルダイニングの代表)が里山の会にお越しになってくださいました。(4 月 30 日来所)

山城地域で子ども食堂を經營されているのは約 10 カ所、京田辺市では新井さんのチームが唯一で、初めの頃は貧困対策でしたが、近ごろは居場所を求めてきているらしいことに変化がみられるようです。現在同志社大学生 15 人位の若者が相手をして日頃の些細な相談がされているようです。問題や課題で無理なところはスタッフの大人が受け止めて対応されているとのことで、里山農園で子ども食堂への提供物は品種関係なくいただけるものはいくらでも受け取らせていただきますのでよろしくお願いいたします、とのことでした。また活動内容も人間関係が里山へ深められるにしたがって参加させてもらいたいとのことでした。お話を伺ってしっかり活動を通して交流すれば協力できる面がさらに広がっていくだろうと感じました。里山農園で頑張っていたい